

「まちづくり」スピード感を持って！

自立する多久市のまちづくりとは

彌富 中島会館・ハロー跡地について市での企画などをやるべきではないか。

答弁 これまで様々な活用案を各種団体と共に検討してきました。しかしながら、土地形状や事業費などの課題によりまして事業化には至っていないのが現状です。利活用については、チャレンジショップとしての利活用など、市内部でも引き続き検討を進めていきたいと思っています。

彌富 いつまでに決定するのか。

答弁 この用地については、長期間未利用地となっているので、早急に検討をしていく必要があると考えています。

彌富 「島根県津和野町」では、買い物不便地区の解消策として、行政が施設を準備して、スーパーマーケットの運営などを企業に依頼されています。多久市でも検討できないか。

答弁 市の発展に寄与する事業計画となるよう検討していきたいと考えています。



彌富 博幸 議員



彌富 スピード感を持って取り組んでいただきたい。市長の決意は。

答弁 私の公約でも、利活用は一番の核となる部分の一つであり、スピード感を持って対応、必ずそこは進めていきたいと思っています。

超高齢化社会の道路の安全性と管理は

市の道路・橋梁の管理について

田淵 通学路は草が伸び、雨天時には枝が下がり視界が悪くなるが、安全確保はどうなっているのか。

答弁 通学路は市街地が多いことから、歩道のない路側帯での歩行確保のための除草、また横断歩道や信号機の設置などの要望があつていますが、その件については、各道路管理者や交通管理者がそれぞれ役割分担を行いながら安全確保に努めています。

田淵 橋梁は5年に1回定期点検・管理が行われているが状況は。

答弁 令和4年に2巡目の点検が終了しており、Ⅲ判定（早期措置段階）が12橋あり、11橋は補修を完了し、1橋は架け替えで工事を行っています。

田淵 農道は田植期や収穫時などの場合、通行禁止や制限は出来るのか。

答弁 道路交通法の適用を受ける農道であれば、都道府県公安委員会の判断で、一般の用に供さない農道については、農道管理者で行うことは可能です。



田淵 厚 議員



田淵 高齢化社会で、手押し車、電動シニアカー、電動車イス、買い物車エレカーゴなどの利用が増え、道路管理は重要になりますので、そのことを踏まえて道路管理をお願いします。

子育てしきよなるまち

子育てしたくなるまち

坂口 児童センターあじさいの詳細は。

答弁 子ども子育ての拠点という位置づけで施設内に児童館・子育て支援センター・ファミリーサポートセンター事業・利用者支援事業・発達障害児等療育訓練事業・佐賀県西部発達障害者支援センターの6つの事業があります。

坂口 市内外の利用状況は。

答弁 4月～11月までの利用状況は市内43%（10,716人）市外57%（14,461人）となっています。

坂口 交流人口を増やすため、カフェや居場所を作れないか。

答弁 他の市や他の県の情報を収集し研究していきたい。

坂口 産後ケアに力を入れられている自治体が増える中、多久市の産後ケアは。

答弁 支援が必要な母親に助産師と一緒に訪問するアウトリーチ型の産後ケアを行っています。



坂口 絹代 議員



坂口 高校生年代の医療費助成も早く現物給付にできないか。

答弁 ひとり親家庭の医療費助成の移行時期である令和8年11月に合わせ、現物給付への移行を検討したいと考えています。

農業の現状と市の取り組みは

多久市の農業について

鷺崎 多久市における農業の位置づけと描く今後の在り方は。

答弁 農業従事者や担い手の高齢化、後継者不足などで現状は大変厳しいものと認識していますが、米や大豆、麦など、水田作物ばかりでなく、ミカンを中心とした果樹作物、畜産などが市内全域で営まれており、重要な基幹産業の一つと考えています。農業の今後については、国は令和6年に食料・農業・農村基本法を改正し、初動5年間で農業の構造転換を集中的に推し進める方針を決定され、今後様々な施策が出てくると思いますので、国や県の動向を注視していきたいと考えています。市としては、独自の取り組みについても研究しながら、現在営農されている農家において持続的に農業経営ができる環境づくりに努めたいと思っています。

鷺崎 後継者不足の対応策として取り上げられた地域おこし協力隊と農業法人参入への取り組み状況は。

答弁 農業部門で1名の採用となり果樹農家の下で研修を受けるようになっていきます。また、農業法人の参



鷺崎 義彦 議員



入については、1社から参入の意思決定をいただき、現在、借受け農地の調整など行っていて令和8年度の水稲作付に向け準備をしています。